



西北師範大学と大学間協定を締結

2019年12月12日(木)、西北師範大学(中国甘肅省蘭州市)と大学間協定を締結しました。西北師範大学の代表団5名が本学を訪問し、山本文雄学長と劉仲奎学長による協定署名式を行いました。署名式には本学から小川信明理事、教育文化学部の佐藤修司学部長、佐々木和貴副学部長、杜威教授、内田昌功准教授が陪席しました。

西北師範大学からは、劉旭東教育学院長、何玉紅歴史文化学院長、王君朝国際合作交流処長、程朝侠外国語学院日本語学科主任が陪席しました。

署名式に続いて、山本学長主催の昼食会で親睦を深めたほか、署名式の前には、協定に基づく今後の交流について意見交換を行い、各国からの交換留学生が主に履修している日本文化の授業を見学しました。

今回の協定締結により両大学間で学生を中心とした交流のほか、教員間の交流も期待されます。また、本学の大学間国際交流協定校は、30カ国・地域の61大学となりました。

第三の故郷を見つける農家民泊2019

2019年11月9日～10日、12月21日

2019年11月9日～10日、12月21日に「第三の故郷を見つける農家民泊」を実施しました。

今年は、台風の影響により、例年より遅い実施となりましたが、無事に活動を実施することができました。

本活動は、公益財団法人 中島記念国際交流財団助成を得て、長きに渡り続けられています。それは、受入れ側の農家の方達にとっても、受け入れてもらう私たちにとっても、交流が意義深いものであるからだと考えます。今後も、末永く、双方にとって意味のある交流事業を継続していけたらと考えています。

(高等教育グローバルセンター 准教授 市嶋 典子)



農家民宿の感想

教育文化学部
日本語・日本文化研修留学生
Zun Hnin Phyu
(ズン ニン ピュウ)

私は今年の農家民泊に参加して本当に良かったですと思います。

私は今回「里の灯」の佐藤さんの家にお世話になりました。野菜が嫌いな私なのですが、お母さんが作った野菜は新鮮で、美味しかったのでたくさん食べました。新米の秋田こまちを使ってきりたんぽを作るのが面白かったし、食べるのも美味しかったです。

また、お父さんにトラクターに乗せてもらったのもすごく楽しかったです。夜ご飯のあと、お父さんの三味線を聞きながら楽しい時間を過ごしたことも忘れられません。収穫感謝祭でまた会ったときは、みんなと一緒に餅をついて、記念写真のアルバムを作りました。

そして、久しぶりにお母さんの作った料理を食べながら話すとき、皆と楽しかったことをまた思い出して、さよならはしたくないと思いました。今回の農家民泊で日本農家の食生活や文化などをいろいろ学ぶこともでき、私にとって貴重な体験でした。今度も機会があれば、ぜひまた参加したいと思います。

地域課題解決プログラム(AUSR)実施

高等教育グローバルセンター
准教授 市嶋 典子

秋田大学高等教育グローバルセンターでは、2019年度に（独）日本学生支援機構（JASSO）の海外留学支援制度（協定派遣、協定受入れ）の助成を受け、地域課題解決プログラム（AUSR）を実施しました。

本プログラムは、地域が抱える問題について、個々の専門知識を活かし、各地域の課題解決に寄与する知を構築することを目的としています。また、外国語を学び、学んだ外国語で多様な背景を持つ他者と交流することによって、新たな価値観や関係性を構築していくことを目指しています。

JASSOの協定派遣の助成を受け、国際資源学研究科の氏居綾香さんがフィンランドのラップランド応用化学大学に、教育文化学部丸井柊都さんが北米のセント・クラウド州立大学に留学することができました。

また、協定受入れの助成により、モンゴル、フィリピン、イタリア、ドイツ、フィンランドの協定大学からの留学生が、本プログラムに参加することができました。これら留学生との交流は、秋田の地域の方々にとっても意義のあるものとなっています。留学生と交流したある方からは、「学生さんたちと交流することで、新しい世界を知ることができた。英語ができなくても、秋田弁でも交流は可能！」という感想もいただきました。今後も、留学生にとっても、地域の方達にとっても意義のあるプログラムを維持し、充実させていきたいと思っています。以下では、本プログラムに参加したリチャード・リーンさんと、これから参加する本田 萌さんの声を掲載します。

🗨️ プログラム参加学生の声



秋田大学での留学生活

国際資源学部 特別聴講学生(AUSR)
Richard Lein (リチャード リーン)

I came to Akita University in April of 2019 as an exchange student. At this time I barely spoke any Japanese and my main goal was to learn the language. For that purpose I took the Japanese classes and participated in several activities like clubs or events from the university. For me, the mix between classes and events helped me learn a lot of Japanese to the point where I'm now able to have conversations with my fellow club members who are all Japanese. A huge part of it was that the Japanese classes had a steady progress which forced and motivated me to study without taking the fun from the learning away.

Also, they showed me that learning English helps you a lot as the textbooks language is always English. But one of the best experiences came with the farm stays where I actually had the chance to visit a Japanese family and was forced to speak Japanese. This helped me greatly improve my Japanese and learn about Japanese culture as they showed me a lot of traditions and customs.

So if you have the chance to come here make sure to use it and enjoy Akita!



フィンランド留学での目標

理工学研究科 共同ライフサイクルデザイン
工学専攻 1年次 本田 萌

私は今回留学するにあたり、達成させる目標が2つあります。

1つ目は環境の取り組みに関して世界トップクラスのフィンランドで授業内外で環境配慮に基づく社会システムやビジネスの考え方を学び、日本の大学院で学んできた製品のライフサイクルや持続可能な開発に対する新しい視野を得ることです。私の視野を広げる一助となった学部生時代の課題解決型プロジェクトの授業が、留学先大学においても開講予定で、様々な地域から来た学生と考えを話し合うことが楽しみです。

2つ目は現地の生活を通して、フィンランド語を毎日話し修得することです。具体的には現地の人との交流を楽しみ、フィンランドの伝統文化を学びたいと考えています。また、秋田大学に來ているまたは来るフィンランドからの交換留学生とフィンランド語で会話できるようになりたいです。

私が生まれ育った外国人人口15パーセントの異文化共生の町も、秋田大学で留学生に囲まれた生活でも、ジェスチャーと耳から入ってくる言葉のニュアンスを理解することの大切さを学びましたが、どちらも日本であったことから、外国語を話すというよりは日本語に頼ってしまっていました。完全に日本語が使えない環境で初めて聞く言語に慣れず、初めはとても大変だと思いましたが、話し続けることで克服し、パワーアップして帰ってきたいです。

留学生寮周辺町内会との交流事業:「はじめは誰かの悩み」

2020年1月11日(土)開催

留学生寮周辺町内会の方、高校生、本学留学生、日本人学生が1つのグループになり、留学生Aさんの悩みについて考えるディスカッションイベントを行いました。

【Aさんの悩み】

留学生のAさんは公園でバーベキューパーティーをしていました。するとそこに、一人の男性が現れて、ここでバーベキューをしてはいけないと注意されます。

Aさんが
「日本人がしているのを前に見た。看板にもダメって書いてない。なぜだめなのか。」
と聞くと、
「これは日本の常識だから！」と言われてしまいます。

Aさんや近所の人々の言動に問題があったのでしょうか。この公園をより使いやすいものにするにはどうすればいいのでしょうか。



参加留学生の感想

理工学部 特別聴講学生(AUSR)
Rasuli Sistan
(ラサリー シスタン)

The described event was an instructive opportunity to examine how one's own cultural and social identity affect one's way of communication by analyzing a short story that first seems like a case of cross-cultural miscommunication but turned out as a more meaningful issue since we discussed ways on how to deal with these problems regardless of aspects like nationality and so forth.

Besides, I recognized how my personal cultural and social background affects the way I communicate with and how I perceive others and their differences in terms of cultural, social and personal beliefs, values and norms.

The discussion and the associated tasks helped me improving my cross-cultural skills and increasing my capabilities of self-awareness and self-criticisms in a multicultural environment. By listening to various ideas from people with different backgrounds and discussing them in a respectful environment, we tried to overcome these differences to establish a livable place for everyone. Since the result could be applied to Akita city as well, the opportunity of having similar discussions about different situations arises. I'm grateful that I was able to join this event and I'm looking forward to participating in similar events again.

専任教員からひとこと

高等教育グローバルセンター
准教授 濱田 陽

「私の願い」

先日、ALL ROOMsの来年度の学生スタッフの面接を行いました。そこで、求める「人材」として、三つの事をあげました。

一つ目は、常に何事からも学ぶ姿勢を持つ事です。年齢・性別・国籍に関係なく、必ず人から学ぶ事はあるはずです。

二つ目は、常に人の気持ちを考えるという事です。相手の気持ちへの配慮が足りないから摩擦が起き、チームの輪が乱れます。独りよがりにならない、相手への思いやりが大切です。

三つ目は、深く考える事です。自分で考え、自分で行動し、振り返り、次に生かす必要がありますが、そこには深い思考が必要です。

これらは、ALL ROOMsのスタッフに必要な要素というよりも、私自身、日頃から考え、同時に、皆さんが卒業していく時に、自然に備わっていて欲しいと常日頃から願っているものです。



日本のもちつき：2020年12月20日（金）開催

教育学研究科 教員研修留学生
MABUTO BENEDICT TINASHE
(マブト ベネディクト ティナシェ)



Rice cake party

Experiencing Japanese culture is an enjoyable activity for international students.

The rice cake party also featured as a platform for engagement with Japanese culture. International students gathered to enjoy making and later on feasting on the rice cakes.

Ichishima sensei as the master of ceremony got the ball rolling. She called upon the president of the university to give a speech. His presence is evidence that this was a big event. He encouraged the international students to engage in various Japanese cultural activities.

The making of rice cakes then began with rice pounding. There were grandmothers and grandfathers who had come to teach the international students to make the rice cakes. They demonstrated so well. Each one of the international students experienced the pounding of rice.

It was a marvel to watch the international students pounding the rice to make rice cakes. While pounding continued some proceeded to the table to make the rice cakes. Putting meat inside rice and neatly folding. All this was done with the community members demonstrating. Everyone then enjoyed feasting on different kinds of rice cakes. It was indeed a magnificent event how I wish more international students could attend.



令和元年度 秋田大学 SD研修を開催



2019年9月20日(金)手形キャンパスにて、SD(スタッフ・ディベロップメント)研修「留学生対応のための英語による窓口対応研修」を開催しました。

大学職員の窓口業務（履修・授業相談・試験対応・キャンパス案内・電話対応・急病や地震などの緊急時対応など）に特化した英会話マニュアルを活用し、窓口対応の基本英会話(face to face communication)、英文Eメールの書き方(E-mail Writing)、電話対応の基本フレーズ (Telephone communication) を学びました。

当日は、本学教育系職員、事務系職員、技術系職員、医療系職員24名が参加し、基本フレーズやダイアログを口に出して練習し、実際の対話を想定したロールプレイングを繰り返し行い、英文Eメールを実際に書くワークを含む実践的な研修となりました。

参加者の声



- 「実用的で大変勉強になった」
- 「講師が学内の先生なので、話しやすかった。内容も充実していた」
- 「英語に苦手意識があったが、実践を繰り返すことで苦手意識がやわらいだように思う」
- 「ConversationとWritingを限られた時間の中でバランス良く学ぶことができた」
- 「E-mailの例文や会話での例文で使えるものがあったので、今後の業務に役立てたい」



留学体験記 国立ハンバット大学（韓国）

教育文化学部 地域文化学科 国際文化コース
2年次 加藤 陽

私は現在、韓国の国立ハンバット大学に留学している加藤陽です。

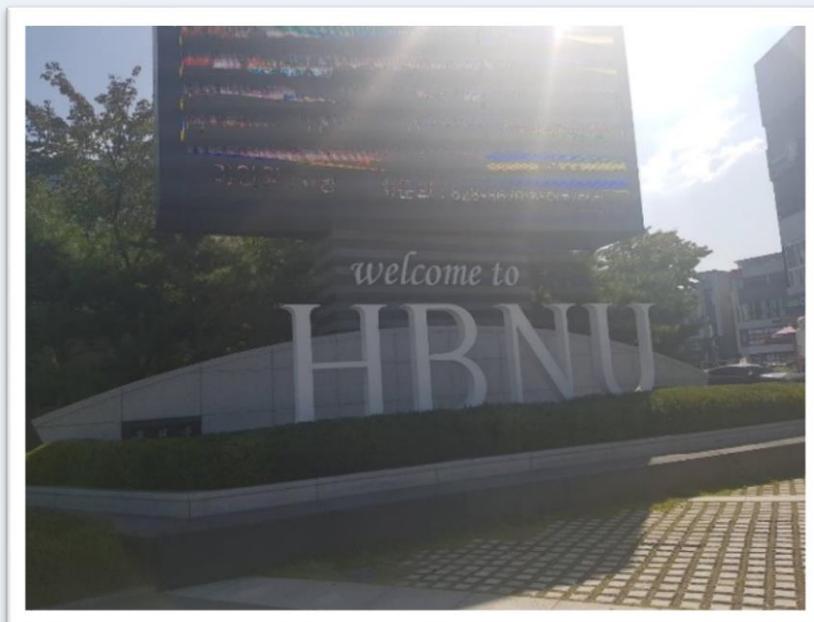
私が住んでいる大田広域市は韓国の中心に位置し、ソウルからはバスで約2時間です。大田市内の主要地域はとても栄えていますが、大学周辺は山に囲まれた自然溢れるところです。治安も良く、オシャレなカフェや美味しいご飯屋さんが沢山あります。

私は大学で韓国語を中心に学んでいます。授業の難易度はそこまで高くありませんが、予習・復習を怠ると授業についていけなくなってしまうので、毎日必ず行いました。

また、授業では先生が韓国語以外にも韓国の文化や習慣などを話してくれることも多々あります。そして、授業は他の国の留学生と出会えるチャンスでもあったため、会話することで新しい人と出会い、知らない文化を知ることが出来ました。

授業外では日本語学科の11月に行われた学術祭の練習が印象に残っています。学術祭で生徒が日本語で劇をするため、日本語の発音やアクセントの練習を手伝いました。そこで多くの日本語学科の1年生と知り合い、仲良くなることができました。

最後に韓国で生活していて、苦労することも勿論ありますが、毎日が刺激的でとても充実しています。また、留学していて1番感じた事は自分の意思を伝えることの大切さです。言葉の壁はあったとしても他国の人には母国の人よりもしっかりと「自分」を伝えなければいけないと思いました。この事を胸に残りの留学生生活を有意義な時間にしたいと思います。





令和元年度 秋田大学全学FD・SDワークショップを開催



2019年9月27日(金)手形キャンパスにて、FD(ファカルティ・ディベロップメント)・SD(スタッフ・ディベロップメント)研修「学生第一の大学～秋田大学のブランド力～」を開催しました。

今年度のワークショップは、本学のモットーとしている「学生第一」に焦点をあて、学生第一の大学の「魅力ある授業」、「授業・指導の充実」、「学生の自主自律を尊重した適時適切な支援」とはどんなものか、教員・職員・学生がそれぞれの立場から意見を共有し、本学の課題やその解決方法を共に考える機会として実施されました。

当日は、本学教育系職員、事務系職員、技術系職員、学生の65名が参加し、山本文雄学長による基調講演をはじめ、効果的な講義法・教育手法や講義での伝え方、プレゼンテーション時のポイントを実践的に学ぶことを目的に大阪大学 村上正行教授による講演(テーマ:伝える・伝わる魅力ある授業の作り方～効果的な講義法・教育手法～)、株式会社マイナビによる講演(テーマ:伝える力～コミュニケーションスキル～)が行われました。さらに、グループディスカッションを通して、本学の課題改善に向けた具体的な解決方法を検討し、最終プレゼンテーションで発表しました。

最終プレゼンテーションの発表資料をまとめた報告書をAU-CIS「電子書庫(総合学務課)」で公開しています。秋田大学FD・SDワークショップは、教育改善の推進に資するFD(ファカルティ・ディベロップメント)・SD(スタッフ・ディベロップメント)の実施を通じて、全学の教職員が連携し、全学教育の改善・充実を図ることを目的に毎年9月に実施しています。皆様のご参加をお待ちしています。

参加者の声



- 「学生のニーズや考え(本音)を改めて聞いて良かった」
- 「学生第一を自分なりに授業に反映したいと思うようになった」
- 「自分の講義を見直し、再考してみたいと思う」
- 「学生からの意見をもっと聞くようにすべきだと感じた」
- 「アクティブラーニングに関して悲観的であったが、参加を通して方が変わった」
- 「教員と学生で教育に関する考え方、授業、評価に関する考え方が異なっているということを知った」



秋田大学 国際交流関連データ

■国際交流協定校数(2019年12月12日現在)

大学間協定 (30カ国・地域61大学)
部局間協定 (18カ国・地域30学部等)

■留学生数(2019年10月1日現在)

学部生	103名
大学院生	69名
交換留学生・研究生等	52名
合計	224名

2019年9月～2020年3月 実施 高等教育グローバルセンター事業

2019/10/ 1	留学生歓迎会
10/16	第2回海外留学説明会
12/20	日本のもちつき
2020/ 1/11	留学生寮周辺町内会交流事業
2/ 3	留学生修了記念パーティー
2/21~22	留学生スキー合宿